

初めての国際会議を経験して

建設社会工学専攻M2 瀬戸 なつみ



国際会議参加にあたり

2014年9月2日～6日にドイツ・ライプツィヒのライプツィヒ応用化学大学で開催されたdegrowth国際会議に参加しました。ドイツへ行くのは今回が初めてであり、町中には古い建物が多く残りつつも、新たに建てられた建造物もそれらに融合しており、周辺には緑地が広がる心地よい場所でした。今回、私が参加した国際会議では、ライプツィヒ東地域を対象敷地とした設計課題の発表をパワーポイントによって行いました。発表内容としては、東ドイツ時代に西側へ人口流出が起きたこ

とによる人口減少、そして、建物の空き家率が高くなっていること。また、失業率と移民率が合わせ40%であること等の問題があり、それらのライプツィヒ東地域の社会問題を踏まえて対象敷地に対して建築を提案することによって、まちづくり改善のきっかけとなるように、対象敷地に建築物の提案をすることを目的としました。



国際会議終了後

発表での気づき

今回の発表を通して、ライプツィヒの学生が建築を通して日本に対してどのように感じているかについて、知ることができて面白かったです。ライプツィヒの学生は私たちがライプツィヒを対象に提案をした様に、北九州を対象敷地とした設計課題の発表を行いました。外国から見た日本の捉え方が大変興味深く、また、その提案の表現方法も多彩で、CGが駆使されており美しい表現で、大変勉強になりました。

また、自分自身の英語力の乏しさを実感しました。学生の内から、国際会議という大きな舞台で挑戦できたことは大変貴重な体験であり、その場で経験した恥ずかしさ等をバネにして今後英語力を高めていきたいです。

ごはんの会

国際会議終了後に、1ヶ月程修士論文執筆のための調査でライプツィヒに滞在している時に、NPO団体「日本の家」にお世話になっていました。

その「日本の家」では毎週土曜日に「ごはんの会」という一定の金額を支払えば誰でも食事を楽しむことができるイベントを開催していました。私たちはそのイベントの調理の準備や接客を行いながら、食事に来られた現地の方々とは慣れない英語でアンケート調査を行いながらお話しすることができ、大変貴重な体験をすることができました。



ごはんの会

最後に国際会議参加にあたり、奨学金を援助していただいた明専会、設計課題に関してご指導いただいた徳田光弘准教授、また、現地で大変お世話になったNPO団体「日本の家」の方々には厚く御礼申し上げます。

※平成26年10月記